

(2) 仁淀川を考えるプロジェクト (NPO 法人環境の杜こうち 石川妙子氏)

- ・仁淀川町の大渡地区で、仁淀高校、仁淀中学校と一緒に、水生生物調査を実施した。仁淀高校のこれまでの取組みとして、平成15年度から総合的な学習の時間で、「仁淀高校プロジェクト」を続けており、自分を知り、地域を知る、仁淀川町に触れることがテーマであった。同校では8年前から仁淀川と長者川の水質調査を継続しており、私が関わったのは本年度だけだが、これまでは高校の理科の授業などで実施している。
- ・平成22年10月7日に、仁淀高校の生徒6名と仁淀中学の生徒10名と一緒に水生生物調査を実施した。定点観測するにはもってこいの場所に仁淀高校があり、近くに仁淀川本流と長者川(仁淀川支流)がある。「仁淀川本流グループ」と「長者川グループ」に分かれて水生生物を採った。中学生は水生生物調査を初めて体験する生徒もいた。
- ・採った生き物を体育館に持って帰ってきて、みんなで生物の名前調べや簡易調査票への記入を行い、点数をつけた。まとめとして、当日の河川環境は、仁淀川本流の流速はほとんど無し。これは上流に大渡ダムがあり、この日は大渡ダムからの放流は無く、水がほとんど流れていない状況であった。長者川のほうは、流速はあったと思われる。仁淀川本流は水溜りがあるが、水がほとんど流れていない。川底の石の表面には泥がついていた。長者川はきれいな水が流れていた。
- ・簡易調査表の結果では、仁淀川本流では、取れた虫の分類をしたところ、きれいな水の点数が2点、少しきたない水の点数が4点で、総合評価では、「少しきたない水」となっていたが、この簡易調査は、水が流れている所での調査が基本だが、水が流れていない状態で実施したため、こういう結果になってしまったと思われる。取れた虫は、イトトンボ、アキアカネ、シオカラトンボなど16種類。水が流れていない所にいる虫が多く取れた。長者川では、きれいな水の点数が6点、少し汚い水の点数が3点で、総合評価は、「きれいな水」ということになった。虫の種類も23種類と多かった。
- ・昨年度まで仁淀高校が実施していた調査法は、「ベック津田法」であるが、この調査法に当てはめてみても、仁淀川本流は23点で「少し汚い水」、長者川は33点で「きれいな水」で、簡易調査法と同じ結果であった。では、水の流れがある仁淀川本流の別の地点の水生生物調査はどうかというと、少し下流の「川口」で実施した調査では、「きれいな水」という結果になっている。

平成23年3月で仁淀高校は閉校となるが、これまで続けてきたこの活動データを取ることを続けてほしいということ、地域の子どもたちに仁淀川・長者川のすばらしさをバトンタッチしていくこと、そして、「仁淀川町のきれいな川を誇りに思う子ども」が育ってほしいと感じている。

仁淀高校が無くなってしまふことで、この活動が止まってしまうのではなくて、仁淀中学に引き継ぐこと、この仁淀高校の精神は、仁淀中学校へ引き継がれていく。地域の人も温かく、仁淀中学校の生徒や、仁淀川町の子どもたちを見守ってほしい。そして、仁淀川のすばらしさを子どもたちに引き継いでいければと思っている。

仁淀川を考えるプロジェクト（取り組み状況）

仁淀川チームと支流・長者川チームとに分かれての水生生物調査(2010.10.7)

支流チーム、最初は冷たかったけど、積極的に水温計ったり、石をまぐり川虫を探します。



ワイワイやりました。楽しいですね、やっぱり、外での活動は！先生たちも「朝長ります。



水生生物から見た仁淀川の清流保全についてその大切さを学びました。(同)



継承セレモニーの様子（仁淀高校から仁淀中学へ活動が受け継がれた！）



2011.1.20（仁淀高校体育館にて）